

妊娠中に長期入院となった初産婦の夫の思い ～ニーズに目を向けて～

キーワード：妊娠期、長期入院、夫、不安

○日比生 陽子（東入院棟5階）

I. はじめに

A病院の産婦人科病棟では、近隣の医療機関からの母体搬送や紹介で妊娠高血圧症候群・早産などのハイリスク症例が多い。その中で、切迫早産等で突然の長期安静入院となる妊婦がいる。初産婦の夫婦の場合、初めての妊娠中に夫婦と一緒に過ごすことができない環境となってしまう。A病院スタッフは、長期入院となった妊婦と夫に対して、妊娠週数による保健指導等を実施している。私はこれまで妊婦の夫が面会に来ている際は、夫婦二人から入院中の思いを伺うことがあった。しかし、妊婦の夫単独で思いや不安を聞く機会はなく、夫は何を感じているのか、何を望んでいるのかについて知りたいと思った。先行研究では切迫早産で入院している妊婦の夫の思いを追跡する研究はされていたが、夫のニーズを明らかにすることや、助産師として具体的な介入方法を見出す研究はまだされていない。よって本研究では、長期入院となった妊婦の夫がどのような思いを抱いているのか、ニーズは何なのかを把握し、そこから助産師として具体的な介入方法を明らかにすることを目的とする。

II. 用語の定義

初産婦：今回が初めての分娩であり、妊娠回数は定義しない

長期入院：診断名は問わず、妊娠22週以降で2週間以上の入院

夫：対象妊婦と婚姻関係または入籍予定であること、また初めて父親になる者

III. 倫理的配慮

正常な妊娠経過ではなく、予期せぬ長期的な入について指摘されていた。

院となっているため、精神的な負担とならないよう対象者の選択・データ収集の方法に配慮する必要がある。

IV. 研究方法

1. 研究デザイン

質的研究

2. 研究機関

2018年9月～11月

3. 対象者

A病院産婦人科病棟において、長期入院となった妊娠22週以降の初産婦の夫

4. データ収集方法

入院後2週間が経過した際に、プライバシーを確保できる個室でインタビューガイド（①妊娠中の妻の入院に対しての思い②今感じていること・考えていること③困っていることや要望）に沿って約20～30分程度の半構成的な面接を行う。

5. 分析方法

面接における内容を文章形式に直し記述内容をコード化する。また、対象者各々のコードにおいて類似性を考察し、まとまりを作ったものをカテゴリー化する。

V. 結果

1. 対象者の概要

研究参加者の概要を表1に示す。

研究参加者の妊婦の年齢は30代であった。データ収集を行った2名（夫）の妊婦うち、Aは妊娠高血圧症候群疑いの安静・体重コントロール目的、Bは切迫早産で点滴加療目的のため入院となった。どちらも入院前から血圧・体重や切迫症状

表1. 研究参加者の妊婦の概要

	A	B
年齢	30代	30代
妊婦の診断名	PIH 疑い FGR	切迫早産 FGR
入院期間中の 妊娠週数	35週0日 →38週3日	33週3日 →36週3日

2. 面接の結果

面接で得られたデータを基に逐語化を行った。

1) 夫の思いをコードとサブカテゴリーとして抽出した。以下コードを「」、サブカテゴリーを〈 〉で示す。詳細は表1に示す。「最初聞いたときはびっくりしました」という発言から〈突然の入院の驚き〉というサブカテゴリーを抽出した。「そこまで酷かったと予想できていなかったです」という発言から〈外来から入院の予想ができていなかった〉というサブカテゴリーを抽出した。「前向きに入院を受け入れました」という発言から〈入院することによる安心感〉というサブカテゴリーを抽出した。「入院してすぐは元気がなく、声をかけて頑張ろうと言いました」という発言から〈妊婦を支えたい気持ち〉というサブカテゴリーを抽出した。「赤ちゃんが心配です」という発言から〈胎児の健康状態の不安〉というサブカテゴリーを抽出した。「入院が長くなって不安が強くなりましたね」という発言から〈入院が長くなることによる不安〉というサブカテゴリーを抽出した。「入院する前に買い揃えられました」という発言から〈家族や友達からのサポートにより育児準備ができた・入院前に育児準備をしていて良かった〉というサブカテゴリーを抽出した。「家事の不安はありませんでした」という発言から〈家事の不安はなかった〉というサブカテゴリーを抽出した。

2) 夫のニーズについてコードとサブカテゴリーとして抽出した。以下コードを「」、ニーズを【 】で示す。詳細は表2に示す。「助産師さんの指導で間食は減っていたんです」という発言から【外来の保健指導】というサブカテゴリーを抽出した。「外出許可が出たのでとても嬉しかったです」という発言から【妊婦の気分転換】というサブカテゴリーを抽出した。「午前中に面会にいけたらいいなと思いました。」という発言から【面会時間の調整】というサブカテゴリーを抽出した。「奥さんの洗濯物は、僕が家で洗濯をしていました」という発言から【妊婦の日常生活への気配り】というサブカテゴリーを抽出した。「入院して話を聞き原因がわかってよかったです」という発言から

【情報提供による胎児に対する安心感】というサブカテゴリーを抽出した。「両親学級に参加してパンフレットを見て準備はできていました」という発言から【両親学級の参加・パンフレットの活用】というサブカテゴリーを抽出した。

VI. 考察

名和らは、入院が決まった時の思いとして、安静の意味を正しく理解できず外来で症状を説明されても自分のこととして捉えられていなかった妊婦がいた¹⁾と報告している。本研究においても〈突然の入院の驚き〉〈外来から入院の予想ができていなかった〉というサブカテゴリーから、夫も入院という危機感を感じていなかったことがわかる。A病院の産科外来は、妊娠中期・後期に助産師による保健指導を実施しているが、医師の診察に同席することや妊婦・家族に理解度を確認する機会はほとんどない。このことから、入院の可能性のあるハイリスクな状態にも関わらず外来管理であった場合、妊婦・夫共に入院の危機感が薄いことが考えられる。【外来の保健指導】というニーズからも、助産師の介入として、外来から妊婦・夫と深く関わる介入が必要と考える。

新川は、長期入院になる妊婦の夫は妊娠や出産に対する不安を常に抱いていた²⁾としている。しかし本研究では〈入院することによる安心感〉というサブカテゴリーと【情報提供による胎児に対する安心感】というニーズが抽出された。A病院は、入院時に患者の家族に病状説明の場を設けている。このことから夫は、妊婦の入院に対し動揺するが、入院後の説明を受けた上で入院することに安心感を抱いていることがわかった。一方、妊婦の入院に対する受け止めに關して名和らは、入院後に自身の行動を振り返り落ち込む妊婦もいた¹⁾としている。妊婦は、自責の念を感じることもあり入院当初から不安が強く夫婦で感情に相違があると考え、助産師の介入として、夫婦が病状の理解度を高められるように、入院当初から助産師が思いを聞き、説明を補足することや、不安の強い妊婦へ夫からも声掛けをするよう促す介入が必要であると考え、

新川らは、夫は妊娠・入院という出来事に対して無力さや疎外感を感じている²⁾としている。本研究においても〈夫が妊婦を支えたい気持ち〉というサブカテゴリーから、夫は妊婦が不安になっていることは感じ取っていることがわかった。新川らは、毎日のように面会に訪れ、妻の衣類の洗濯やその他の家事をするなど様々な気配りを夫がすることは、危機的状況にある妻の母性意識の形成に対する肯定的な働きである²⁾としている。

「声をかけて、頑張ろうと言った」というコードや【妊婦の気分転換】【妊婦の日常生活への気配り】【面会時間の調整】というニーズから、妊婦とコミュニケーションをとることや入院環境の中での妊婦への気配りをする事で、夫が妊婦を支えようとしていることがわかった。助産師の介入として、夫が面会に来た際にはコミュニケーションを図り夫自身の不安や妊婦の不安をタイムリーに聞き、危機的状況にある夫婦を支えられるようにサポートすることが必要と考える。また妊婦と夫の精神状態を考慮し、必要に応じた時間外の面会時間の調整をすることも重要であるとする。

〈胎児の健康状態の不安〉というサブカテゴリーから入院してから知った胎児の情報に不安を抱くことがあり、〈入院が長くなることによる不安〉というサブカテゴリーから、長期入院によって夫の不安は増大することがわかった。助産師の介入として、長期入院となってきた場合には夫の思いを聞く機会を作り、必要に応じて病状説明の場を改めて設けるといった介入も必要と考える。

〈家族や友達からのサポートにより育児準備ができた・入院前に育児準備をできて良かった〉というサブカテゴリーから、育児準備を進める上で周囲の環境が整っていることが重要であるとわかった。A病院では外来の保健指導でサポート体制について確認し、必要時地域と連携している。また一か月に3回母親学級を開催し、分娩・育児物品は妊娠34週頃までに早めに準備するよう指導している。【両親学級の参加・パンフレットの活用】というニーズから、両親学級に参加することによって夫婦が育児準備に関して早めに行動化できていたと考えられる。また前述のように、夫は無力さや疎外感を感じることもある²⁾ため、分娩・育児物品の物理的な準備や【妊婦の日常生活の気配り】というニーズで夫自身の役割獲得につながっていると考えられる。助産師の介入として、時期に応じた保健指導を夫も含めて行うこと、妊婦が入院中の夫に対して育児準備等の具体的な助言を行い、それを遂行することで父親役割獲得につなげることも必要であるとする。

Ⅶ. 結論

1. 妊娠中に長期入院となった初産婦の夫は、〈突然の入院の驚き〉〈外来から入院の予想ができていなかった〉〈入院することによる安心感〉〈妊婦を支えたい気持ちと不安〉〈家事に不安はなかった〉〈胎児の健康状態の不安〉〈入院が長くなることによる不安〉〈家族や友達からのサポートによ

り育児準備ができた・入院前に準備をできて良かった〉という8つの思いを抱いていることがわかった。

2. 妊娠中に長期入院となった初産婦の夫は、【外来の保健指導】【妊婦の気分転換】【面会時間の拡大】【妊婦の日常生活への気配り】【情報提供による胎児に対する安心感】【両親学級の参加・パンフレットの活用】という6つのニーズがあることがわかった。

3. 妊娠中に長期入院となった初産婦の夫に対して助産師は、外来から継続的に深く関わり早期から関係性を構築する介入が必要である。また、妊婦だけでなく夫の思いを継続的に汲み取り時期に応じた保健指導を実施することや、医師からの説明の場における補助的な役割を果たすことで父親役割獲得につなげる介入が必要である。

Ⅷ. 研究の限界

本研究は対象者が週数の浅い妊婦の夫であれば面接結果が異なることが予測される。また対象を初産婦の夫に限定しているため、経産婦の夫を対象にした場合面接結果が異なることが予測される。このことから今回の結果を一般化することは難しく、研究の限界がある。今後はさまざまな背景の対象者での質的研究を進めていくと共に、量的研究も必要と考える。

Ⅸ. 謝辞

稿を終えるにあたり、本研究にご理解頂き、調査に快くご協力くださいました皆様に心より感謝申し上げます。

X. 参考文献・引用文献

- 1) 名和文香、服部律子、他9名：三次医療機関を受診するハイリスク妊婦への継続した支援のあり方、岐阜県立看護大学紀要、17巻1号、p97-107、2017
- 2) 新川治子：切迫早産の初産婦の夫の妊娠や出産、父親になることに対する気持ちの変化—入院から出産までの追跡—、日本助産雑誌、20巻、p64-73、2006

表1. 面接で得られた夫の思い

サブカテゴリー	コード
突然の入院の驚き	A: わあ、大変だと思いました。 B: 最初聞いたときはびっくりしました。
外来から入院の予想ができていなかった	A: 外来から血圧は高いねって言われていたんです。あと体重も増えないように言われていました。 B: お腹が張るのと、お腹が時々痛いって言って具合が良くなかったこともあって早めに産休に入ることになりました。ひとつ前の健診でもお腹の張りは気を付けないかねってなっていたんです。そこまで酷かったと予想できていなかったです。入院とまでは思っていなかったですね。
入院することによる安心感	A: 僕も、赤ちゃんのためには入院は良いよねと前向きに入院を受け入れました。不安はそこまでなかったです。 A: 入院することで（規則正しい生活を送ることができ、安静にできたので）赤ちゃんが大きくなって良かったです。 B: 姉がこの病院で産んでいて、突然のことだったけど家族も入院したことあるから安心感もありました。入院した当初はそこまで不安はありませんでした。診てもらえるのなら、赤ちゃんのためだと思って大丈夫でした。
妊婦を支えたい気持ち	A: 元々自分も奥さんも明るい性格なのですが、入院してすぐはやっぱり奥さんはナーバスというか元気がなかったですね。ごはんも食べられないし、暇と言っていて…だから声をかけて、頑張ろうと言いました。 A: 職場環境は良かったため、仕事帰りにほとんど毎日面会に来ました。LINE（連絡ツール）も毎日していました。 B: 家と病院が近くてすぐに面会に行けるので、良かったと感じています。職場環境はまあ悪くはなかったもので、月曜日と金曜日以外は毎日夜に面会に来られたので良かったです。
家事の不安はなかった	A: 家事の不安はありませんでした。家でも僕も家事をしていたからある程度のことは1人でできました。 B: 元々共働きだったので困ることはありませんでした。
胎児の健康状態の不安	A: 赤ちゃんが元気に産まれてくれたら、と思っていました。 B: 赤ちゃんのことが気になります。臍の緒の血管が1本しかないことが心配です。 赤ちゃん自身も小さかったことが心配ですね。入院してからさらに「小さいんだ…」って感じました。
入院が長くなることによる不安	A: 予定していた手術の日が1週間伸びたと言われたときは、1週間伸びたのか…という思いでした。 B: 入院の時期が長くなってくるにつれて、不安が強くなってきましたね。大丈夫なのかなって。
家族や友達からのサポートにより育児準備ができた	A: 自分の妹が3人とも育児をしていて、奥さんの友達も育児経験者がいたので、それもあって（スムーズに）揃えていました。入院の1週間前くらい前に偶然2人で西松屋に寄って、そこで色々買い揃えていて本当に良かったです。赤ちゃんが帰ってきたら僕の実家に帰る予定です。
入院前に育児準備をしていて良かった	B: 早めに産休に入ったので、僕が休みの日にはおむつとか買ったりして、ちょうど入院する前に買い揃えられました。家族のみんなから（物品を）もらったりしましたね。産後は奥さんの実家に奥さんは帰る予定です。無事に退院できそうなので、自宅の育児荷物を移したいと思います。

表2. 面接で得られた夫のニーズ

サブカテゴリー	コード
外来の保健指導	A: 助産師さんからの妊婦健診での指導もあって間食は減っていたんですけど、入院になりました。
妊婦の気分転換	A: 奥さんの体調が落ち着いていると、外出許可が出たのでとても嬉しかったです。
面会時間の調整	B: 面会時間が午前中にもいいけどなどと思うことはありました。時間の幅が広がるとありがたいなって。
妊婦の日常生活への気配り	A: 奥さんの洗濯物を持って帰って、僕が家で洗濯をしていましたね。 漫画やゲームを持って来たりしていました。
情報提供による胎児に対する安心感	B: 入院して話を聞くことで、原因がわかってよかったです。
両親学級の参加 パンフレットの活用	B: 両親学級に二人で参加できました。そのパンフレットの項目を見ながら、ある程度準備はできていました。